

甲斐市立双葉東小学校 自己評価書（前期・後期）

平成22年7月20日(火)作成

校長 「 中 千 博 」 記述者 職名(教頭)「 甲田 ふみ子 」

学校教育目標 「 かしこく やさしく すこやかに 」
・ 自ら学び 自ら考え 行動する子ども ・ 人を愛し 自然を愛する子ども
・ 健康で 安全な生活を 目指す子ども ・ 困難なこともりこえる子ども

学校経営目標 ○ 生きる力の育成(知・徳・体) 一心の教育の充実—
○ 学校・家庭・地域の連携強化 一開かれた学校づくり—
○ 児童にとって、教師こそ最大の教育環境

学校経営の基本方針

- ①すぐれた伝統を尊重し、児童や地域社会の実態を把握し、学校教育目標の具現化に努める。
- ②豊かな心の育成に向けて、豊かな人間性とその基盤となる道徳性を育てるために、研究・実践に当たる。
- ③確かな学力の定着に向け多様な指導方法を工夫し、日頃の教材研究を十分行い、学ぶ喜び、分かる喜びを味わわせると共に、基礎・基本の確実な定着を図る。
- ④児童集団の中にも起こる様々な問題・課題に対して、子ども自らが気づき、解決に向け発言し、集団の向上・発展に向かって立ち上がる指導を通して、集団づくりを行う。
- ⑤不登校やいじめ等児童の課題に対して、担任一人だけの悩みとせず、学年体制、全校体制など組織的な対応のもとに適切な支援・指導を行う。
- ⑥教育課程の編成・実施・評価・改善のシステムを大切にし、それらが相互に働くように努める。
- ⑦学校の施設・設備、地域素材・地域の人材を活用し、幅広い教育活動を展開し、児童の生きる力の育成に努める。
- ⑧児童の安全確保と学校の安全管理の充実を目指して、教育環境を整備し、明るく楽しい学校づくりと児童の健康・安全教育を推進する。
- ⑨特別支援学級の経営についての共通理解と適切な指導に努める。
- ⑩学校・家庭との信頼関係を大切にしながら、児童の良い点や課題について、共に考え合い・育てるといった基本的な関係を踏まえて、適切に情報交換する。
- ⑪教職員は常に課題意識を持ち、常に今一步前進・向上を求めて研修・実践に努める。
- ⑫教職員の和と信頼関係を深めつつ、協力して教育活動に専念できる職場づくりに努める。
- ⑬開かれた特色ある学校づくりを推進するために、学校の情報を的確に保護者・地域に発信し、家庭や地域社会との連携を十分に図り、学校評価システムを確立して教育効果を高める。

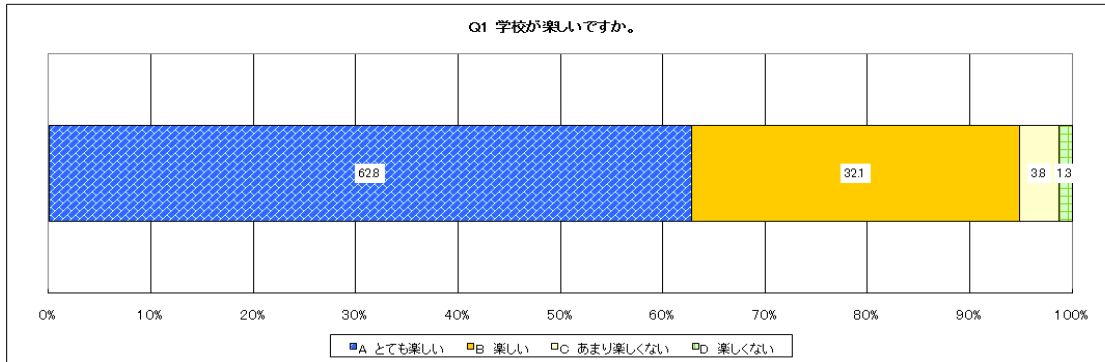
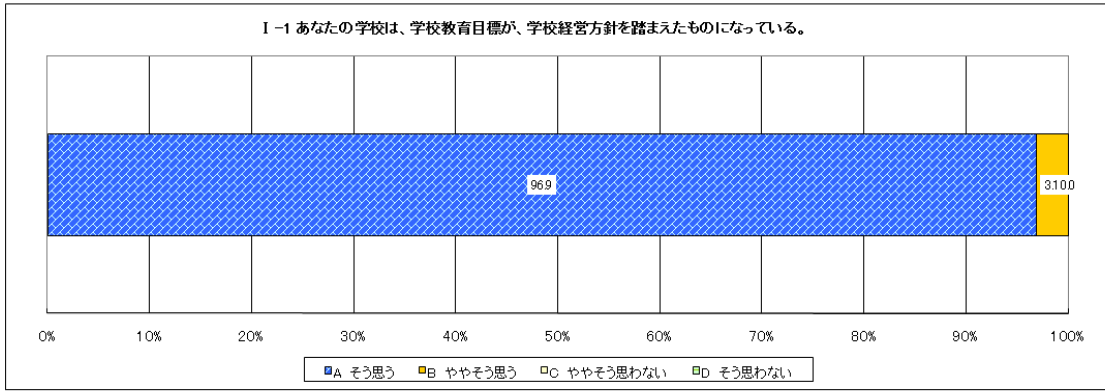
1 全体評価

自己評価結果は概ね、高い水準にある。具体的には、Ⅰ「学校教育目標・学校経営について」、Ⅱ「学校運営について」、Ⅲ「学習指導について」、Ⅳ「生徒指導について」、Ⅴ「地域との連携について」、Ⅵ「学校の特色に関して」の全ての項目において、肯定的評価(A・B)という高い数値結果であった。中でも、項目Ⅰの質問番号1は96.9%、質問番号3は93.8%、項目Ⅵの質問番号1は90.6%と非常に高く、学校教育目標を意識した学年(学級)経営が感じられる。また、学校行事の見直しや校務分掌など前年度末の反省を受け、学校経営方針が十分に理解され機能的・効果的な教育活動の実践に全教職員が努めていることが伺える。

しかし、自己評価の全てが肯定的評価(A・B)で占められてはいるものの、Ⅲ「学習指導について」8項目に渡って否定的評価(C)が1~3人いることは、今後の教育活動の中での課題となる。

児童アンケートについては、他の質問に比べ肯定的評価(A・B)の数値の低い項目が2項目(質問番号12、18)あったが、全体的に、大変高い水準にあるといえる。朝読書に取り組んで3年目になるが、家庭との連携が必要である。

また、児童アンケートの結果より、質問番号1の「学校は楽しいですか」で95%の児童が肯定的評価(A・B)をしているので、概ね楽しい学校生活をしていると考えられる。



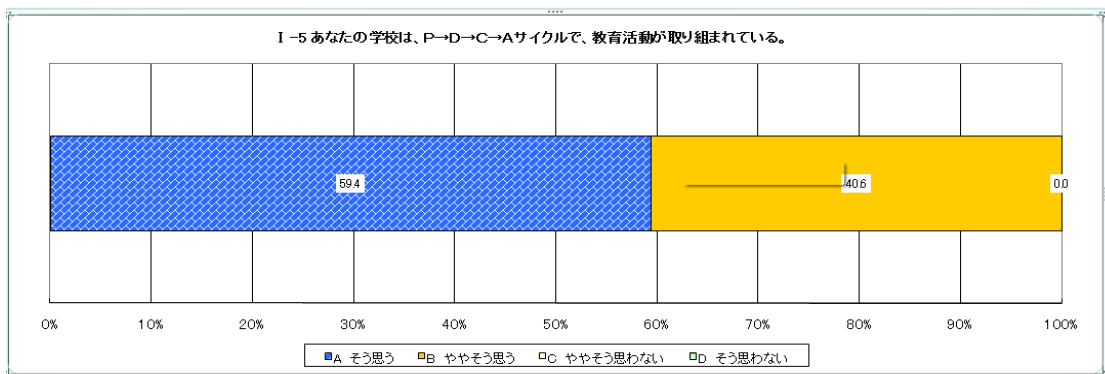
2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

自己評価の8質問の全てが、肯定的評価（A・B）でほぼ占めていた。その肯定的評価（A・B）の中でも6質問がB評価よりA評価の方が高い数値結果であった。しかし質問番号6・7の2質問はA評価よりB評価の方が高い評価結果であった。そして、C評価が質問番号6・7には1名ずつあったことは課題である。

総じてこの「学校教育目標に関して・学校経営について」の項は、高い評価結果といえる。年度初めに、学校長より提案された学校経営について、教職員がその実践に努力した成果といえる。

達成状況



改善策

・肯定的評価ではあったが、学校教育活動でのPDCAサイクルの実施より教職員個人のPDCAサイクルの実施の方が教職員の意識が低かった。大きな学校行事については、その都度反省を行い、次回へと反映しているが、多忙な学校ゆえ、教育活動すべてにおいて、PDCAサイクルが実施できないのが実態である。しかし、職員は、目には見えなくとも自分が行っている教育活動については、責任を持って振り返り、次回へ生かす努力を行っている。個人のPD

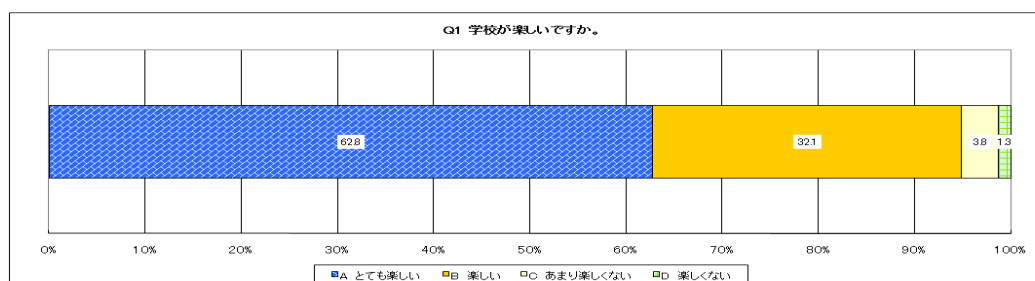
	<p>CAサイクルと学校全体としてのPDCAサイクルとの効果的な関連と連携に努めることが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員厚生部を中心とした計画的な厚生事業の実施、健康診断結果の重視、スクールカウンセラーを積極的に活用し、日々の職場のよい雰囲気を作り働きやすい環境にすることが大切であると考える。 										
<h2>II 学校運営について</h2>											
<p>達成状況</p>	<p>自己評価の12質問の全てが、肯定的評価（A・B）で、良好な結果であるといえる。その肯定的評価（A・B）の中でも質問番号1・3・4・5・6・7・9・12の8質問は、B評価よりA評価の方が高い数値結果であった。しかし、質問番号1・2・3・5・8の5質問は、否定的評価（C・D）が各1～2名いた。個人情報保護も含め、危機管理や組織力に対する意識が高いといえるが、職員の理解の仕方に差がある。</p> <p>この「学校運営について」の項も、高い評価結果といえる</p>										
<p>改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・月1回の安全点検は、今後も定期的に行い、施設・設備の安全の維持を図っていく。また、日々の校舎内外の施設設備の保全に心がけ、修理・修繕も迅速に行う。 ・避難訓練や危機管理マニュアルの作成等を通して、教職員一人ひとりの危機管理に対する理解と実践力を一層高めることが必要である。危機管理マニュアルの内容について、職員会議の折など定期的に確認をする。 ・会議や研究会の持ち方・進め方を工夫し、個々の教職員の校務分掌への理解と協働体制を図りながら、積極的に参加できる雰囲気作りや学校作りに努めることが大切である。 ・今年度、本校は、「心の教育を中核とした双葉東小教育」「信頼される学校」を目指し、日々の教育活動に取り組んでいる。教師一人ひとりが、自己研鑽を重ね、目の前にいる子どもと向き合い、常に真摯な気持ちで指導に当たることが大切である。 										
<h2>III 学習指導について</h2>											
<p>達成状況</p>	<p>自己評価の10質問の全てが、肯定的評価（A・B）でほぼ占めていた。しかし、その肯定的評価（A・B）の中でも質問番号1・2・5・7・9・10の6質問はA評価よりB評価の方が高い評価結果であった。特に、質問番号5については、際だってB評価の方が高い。また、質問番号7・10についても、A評価よりB評価の方が高い数値が出ている。この学習指導については、質問番号1・2・6で各1人、質問番号5・7・9・10では各2名、質問番号8については3名が、否定的評価（C）であった。1学期の早い時期での調査であり、子ども（学級集団）の実態を把握している段階でもあったため否定的評価も出てしまったと思われる。</p> <p>学習指導に関する児童用アンケート質問の全てが肯定的評価（A・B）でほぼ占めている。児童用アンケートの質問番号5「授業が楽しいですか」、6「先生はわかりやすく教えてくださいか」では、肯定的評価がそれぞれ91.7%、97.9%と高いことが分かる。児童用アンケートの質問番号10「宿題を忘れずにしていますか」でも、肯定的評価（A・B）が91.8%を占めている。質問内容によって数値のみで推しはかることはできないが、総じてこの「学習指導について」の項も、高い評価結果といえる。</p> <div data-bbox="252 1646 1364 1921"> <p>Q5 学校の授業が楽しいですか。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A: とても楽しい</td> <td>91.7%</td> </tr> <tr> <td>B: 楽しい</td> <td>8.3%</td> </tr> <tr> <td>C: あまり楽しくない</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>D: 楽しくない</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> </div>	評価	割合	A: とても楽しい	91.7%	B: 楽しい	8.3%	C: あまり楽しくない	0%	D: 楽しくない	0%
評価	割合										
A: とても楽しい	91.7%										
B: 楽しい	8.3%										
C: あまり楽しくない	0%										
D: 楽しくない	0%										

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・教材研究を通じて授業内容の充実を図り、教材の持つ本質や真理に迫ることの楽しさや喜びを子どもたちに伝えていくような授業作りに努めることが肝要であるとする。 ・評価については、毎時間何らかの形で行っているが、評価規準や評価方法を明確にすることは、今後の課題である。子どもたちの学習意欲の高揚につながる評価方法を考えていきたい。 ・教職員一人ひとりが児童の実態を的確に把握し、授業時間だけでなく休み時間や放課後などあらゆる時間を利用し、子どもに寄り添う姿勢を持って関わっていくように努める必要がある。 ・自由に質問や発言できるような学級雰囲気作りに努めることが、これからますます重要になる。 ・ALTの勤務時間が16時30分までのため、担任と具体的な事前の打ち合わせができない状態である。週4日間の中で、何とか事前打合せの時間を確保したい。
-----	--

IV 生徒指導について

達成状況	<p>自己評価の8質問の全てが、肯定的評価（A・B）でほぼ占めていた。その肯定的評価（A・B）の中でも5質問がB評価よりA評価の方が高い評価結果であった。個性豊かな子どもたちが多く、教職員は、児童理解のために、子どもたちとコミュニケーションをとったり、休み時間に子どもたちと遊んだりする姿も見受けられる。しかし質問番号3はA評価よりB評価の方が際だって高い評価結果であった。また否定的評価（C）が質問番号3にあった。生き方教育については、教職員の中にもまだ意識の弱さを感じられる。</p> <p>生徒指導に関する児童用アンケート質問17・20・21・22・23では、どれも肯定的評価（A・B）であったが、項目によっては否定的評価（C・D）も、約2～25%であった。</p> <p>質問内容によって数値のみで推しはかることはできないが、この「生徒指導について」の項も、高い評価結果といえる。</p>
------	--

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・生き方教育（キャリア・進路指導）について、今年、校内研究でもとりあげ、研究と研修、また実践を深める計画を立てている。 ・「学校が楽しい」と子どもたちは高く評価している。今後も、教師と児童また児童相互のよりよい人間関係づくりに心がけると共に、安全で居場所のある学校づくりをしていくことが大切である。
-----	--



V 地域との連携について

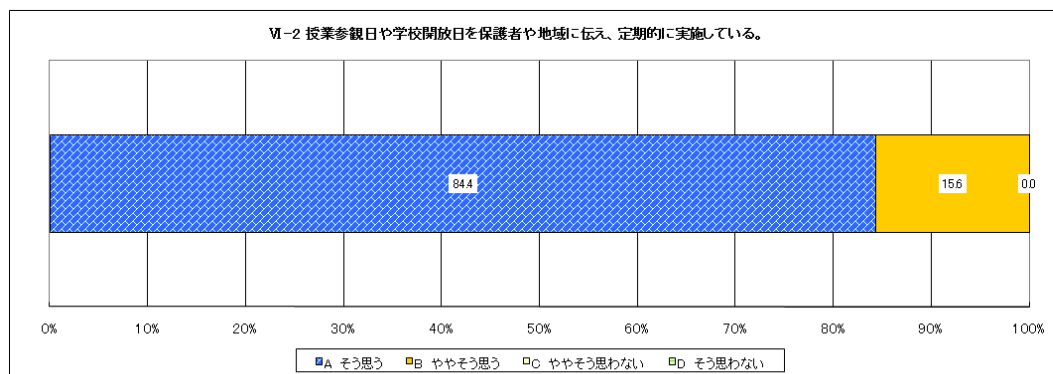
達成状況	<p>自己評価の10質問の全てが、肯定的評価（A・B）でほぼ占めていた。その肯定的評価（A・B）の中でも7質問は、B評価よりA評価の方が高い結果であった。しかし質問番号1・2・4の3質問はA評価よりB評価の方が高い結果であった。また、全体のうち、否定的評価（C）が4質問で出た。地域人材の活用について、学年によって差はあるが、カリキュラムの中に位置付けている部分もある。また、PTA活動として、保護者が主体的に活動する場面も多く、ボランティアの輪を広げているところである。</p> <p>質問内容によって数値のみで推しはかることはできないが、「地域との連携について」の項も、高い評価結果といえるが、今後さらに検討を重ね、なお一層の充実を図っていきたい。</p>
改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて、学級・学年懇談会を積極的に実施し、学級・学校に対する保護者や地域の方の意見等を聞く機会を設けるようにしていきたい。 ・今後も積極的に保護者や地域の声を広く受け止める姿勢や方法を考えていかなければならない。

・今後も毎日のホームページの更新を継続し、学校の教育活動の様子を、ひとりでも多くの保護者や地域の方に理解していただくよう情報発信を行いたい。

VI 学校の特色に関して

達成状況 自己評価の9質問の全てが、肯定的評価（A・B）で占められていた。その肯定的評価（A・B）の中でも7質問がB評価よりA評価の方が非常に高い結果であった。しかし質問番号7・8状に1名（3.4%）のC評価はあったが、D評価は全くなかった。

各質問とも数値のみで推しはかることはできないが、「学校の特色に関して」の項は、大変高い評価結果といえる。校務分掌において、担当者が創意工夫をしながら、取り組んでいる。教職員が常にグランドデザインを念頭に置き日々の教育活動に当たっていることが伺える。



3 まとめ

〈成果〉

1年生は、入学して2ヶ月半ほどでの調査であったり、3・5年生はクラス替えを行い新しい学級集団であったりしたため、まだ、担任や友だち同士のコミュニケーションがスムーズにいかないこともあった。しかし、自己評価・児童用アンケートから本校の教育活動の状況について、学校教育目標の具現化に向け、適切に学校運営がすすめられていることや、今までの取り組みの成果を生かした特色ある学校づくりが行われていることなどが確認できた。

1学期に実施した学校開放日・授業参観日・教育講演会・音楽発表会・ふるさとの一夜など、保護者参加の行事には、学校評議員はもちろんのこと地域の方や各種ボランティアの方、また同窓会の方々にも声をかけ、本校の教育活動の様子を参観していただき、日常的にご意見をうかがうこともできた。

〈課題〉

学校評価システムの目的や意義も理解され、順調に進んできている。評価のための評価に終わることなく、より充実した学校教育のための評価であることを意識し、これからも取り組まなければならない。

前期学校評価結果をよりの確に分析し、教育課題を十分に踏まえるとともに、学校経営方針を再度確認し、さらなる学校教育の充実に向け努めていかなければならない。心の教育の充実・キャリア教育の推進・ICT活用事業の推進など、子どもが「学校は楽しい」「授業がおもしろい」と感じる教育活動を創造していきたい。